

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2191700026		
法人名	有限会社めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホーム中野方めぐみ		
所在地	岐阜県恵那市中野方町3564-3		
自己評価作成日	令和6年7月11日	評価結果市町村受理日	令和6年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191700026-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造建築という事で温かみのある施設です。特に力を入れている点とすれば室内行事です。ご利用者様の歩行状態や体力を考慮すると、コロナが治まりつつあるとはいえ外出は難しい為、春夏秋冬の各季節ごとに季節を感じる事の出来る食事を料理担当職員が工夫したり、節分、七夕等季節ごとの行事や、各ご利用者様の誕生日会の実施も行っています。また、消防詰め所がすぐ隣にあるので、安全面についても話をし協力してもらっています。アピール点とすれば、高齢者施設という事で地域行事には参加しにくいものの、その点を地域の方々に理解してもらっている事です。家族様とも電話などで月に1回は話をする機会をつくっており、感謝していただけていることもアピール点です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中に溶け込む日本家屋で、自宅での生活をそのまま再現するような居住空間があり、温かなぬくもりのあるホールや居室での思い思いの過ごし方を尊重している。地域の民生委員や消防団、壮健クラブとの交流、近隣住民との日常的なかかわりや、野菜などの差し入れ等、地域の一員としての関係が築かれている。 畑で取れたての旬の野菜の差し入れもあり、毎食手作りの食事は季節感に溢れ、利用者と一緒に食事の準備を行っている。茗荷(みょうが)寿司や栗ご飯など昔ながらの家庭料理も好評で、利用者の食の楽しみを大切にした支援を行っている。 管理者は、ホームが改善すべき課題を常に認識しており、取り組む用意がある。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員、理念の把握を出来ており、事業所、ご利用者様、家族様、地域の方々がより良い関係で過ごせるに考えている	「共豊」を理念に掲げ、利用者、職員、地域が互いに豊かに暮らせることを目指している。開設当時から永年勤続の職員が多く、理念は浸透し日常の支援に活かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験の実施、こども園の園児による踊り披露での来訪など地域との交流もしている	周囲は田畑が広がるのどかな地域で、季節の野菜の差し入れがあったり、散歩の時には挨拶をしたり、地元の消防団との関りもある。保育園との交流で、中庭で園児がお遊戯を披露してくれるのを毎年楽しみにしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の実施で意見・アドバイスをもらい、活かしている	令和6年に入り、対面での運営推進会議を再開した。行政や地域包括支援センター、地域の民生委員の参加があり、ホームの状況報告や運営に関する助言を得ている。	コロナ禍以降、家族会が中断し、運営推進会議が対面開催となっても家族の参加が得られていないため、家族参加を促す取組の検討を期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員様の中に市役所の高齢福祉課の方もおり、連携出来ている	運営推進会議以外にも必要に応じて適宜、連絡を取り相談をしている。地域の感染症の状況などの情報提供が得られ、ホームでの感染対策に役立てている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてもミーティングで3ヶ月に1回は研修しており身体拘束の無いケアに取り組んでいる	できるだけ利用者が自由に、好きなように暮らせることを基本として、行動を制限することのないように取り組んでいる。定期的に拘束をしないケアについて研修、話し合いを行い、日々の支援の振り返りと意識づけに努めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで3ヶ月に1回は虐待について研修しており、虐待の無い施設づくりに努めている	「いらっとしても優しく」と意識して認知症ケアにあたっている。日々の業務の中で職員がストレスを感じることもあるが、ストレス軽減を図るための取組みとして、認知症ケアや虐待に関して学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの法令遵守項目の中に権利擁護についても取り入れ、学んで活用出来るようにしている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点が無いように説明し納得してもらっている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様に通信や電話報告するなど連携し運営推進会議でも要望を伝えている	家族には、月に1回定期的に、また変化があった時はその都度、利用者の状況を電話で伝えている。不定期発行のめぐみ通信は、個別の写真を添えて家族に送付している。運営推進会議では事前に家族から意見を募っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は日々、気付きの報告をしており、意見を反映しやすい環境をつくっている	定期的に法人内の他サービスの管理者の合同会議があり、運営に関する話し合いを行っている。法人としての基本方針は管理者から職員に伝達し、情報共有が図っている。各サービスごとの運営方針は各管理者の裁量が大きく、職員の希望をできるだけ取り入れて運営している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	出来る限り職員の指定休日を反映させた勤務シフトを作り、職員のプライベートの確保、就業環境の整備をしている	各職員の事情や希望をもとに勤務シフトを調整し、夜勤専門職員を配置する等、ワークライフバランスに配慮した就業環境がある。希望に応じた働き方が行えるように、情報共有の仕組みが整備されている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある時は職員に参加を促しミーティングでも法令遵守として様々な項目を研修している	法定研修を組み込んだ法人の年間研修計画があり、毎月のミーティング時に実施している。日々の業務については、OJTとして、管理者や経験の長い職員から指導・助言を行っている。行政からの研修の案内は職員に周知しており、参加を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	勉強会の情報の収集に努め 研修があれば出れるようにしている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴する事を中心に介護者本位にならないよう、関係作りをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全部の思いや希望は把握しにくいものの 日々の会話の中で何とか寄り添っている	日々の利用者との会話の中から希望を聞き出し等、支援する中で仕草や表情から汲取っている。希望が叶う実感が得られるよう、迅速に対応するように努めている。把握した思いや実施したことはノートに記載し、情報共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に計画を作成し 現場の職員の意見を反映した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に利用者の課題や介護計画について話し合い、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。具体化したニーズや希望を介護計画に反映させている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ノートの活用や職員間の報連相、 月に1回のミーティングで検討・見直しを実施している	健康状態や食事摂取量、入浴の実施などの個別の日誌と、気づきノートをセットで個人ファイルに綴じ、職員間で情報共有を行っている。ノートの記録は、モニタリングや毎月のミーティングの検討内容に活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1ヶ月に1回は家族様に状況報告し 要望を聞いて対応している	定期的な訪問理美容利用など、利用者や家族のニーズに応じ、できるだけ対応したいという姿勢で柔軟に検討している。以前は訪問鍼灸を受けている利用者もおられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は難しいものの、最小限の介助で出来る事はしてもらっている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には、些細な相談事もしています 2週間に1回の往診も実施しています	有床診療所のクリニックが協力医となり、月2回の訪問診療を支援している。24時間体制で相談や入院対応のフォロー体制もある。状態に応じ、通院や早め早めの相談に努め、連携を意識した健康管理を行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時には病院から状態の連絡をもらうよう関係作りをしており、仮に施設に退院出来なくても主治医の医療機関に転院出来るように努めています	入院時は、医療機関にホームでの様子を情報提供し、入院中の様子や退院時には病院相談員や看護師から情報提供を受け、受入れ体制を整えている。状態によりホームでの受入れが難しい場合は、協力医と相談し、家族の意向を確認しながら移行支援を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様に方針を確認し、共有しています 終末期についても家族様の意思を尊重し希望があれば看取り対応もしていますが今の所は例はありません	半年ほど前から法人の方針として看取り介護を行うことになり、体制を整えている段階である。ホームでできることとできないこと、医療体制等について説明し、家族の希望や意向に沿う支援を方針としている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変は、救急車要請が多いですが、定例会で緊急時対応マニュアルを全職員で確認し、家族様にも対応・要請の旨は周知出来ています		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練や、消防団の方に実際にアドバイスをもらうなど、各職員学んでいます	火災を想定した定期的な避難訓練を、消防署の指導、助言を得て実施している。災害時の対応の手順、役割分担を決めたマニュアルが作成されている。地元の消防団との協力体制が確立されている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、声掛けは常に気を付けており実施出来ている	利用者と職員は、人と人との関りであることを大切にした関係にあり、認知症を意識することなく、「人」として大切に接することで、尊厳に配慮をしている。ミーティング時に、接遇について学ぶ機会がある。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能・不可能があるので出来る事は支援し傾聴による対応です		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体が居室で過ごされる方が多いですが特に口出しはせずに、ゆっくりとしてもらっています		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を聞いたり、出来る方についてはテーブルを拭いたりしてもらっています	毎食手作りの季節感あふれる食事はおいしく、見た目にも美しい。職員や地域から季節の野菜などの差し入れがあり、茗荷(みょうが)寿司や栗ご飯など、季節感のある、利用者が家庭で作ったであろうメニューを考え、食を楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事・水分摂取量はチェック表に記入し、居室での時間が多い方は居室で水分摂取が出来るように準備・対応しています		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立、介助の方がいるものの口腔内の清潔に努めています 毎食後は難しいので特に夕食後はしっかりと口腔ケアをしています	毎食後に口腔ケアを実施している。義歯は、就寝前にはずしてもらい、職員が洗浄、消毒して管理している。口腔内のトラブルがあれば、近くの歯科医院への受診を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方その方のトイレのリズムや、声掛けによる誘導で排泄状態の把握に努めておりポータブルトイレの利用も含めて自立支援をしています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴チェック表をもとに、2、3日おきに入浴出来るよう声掛けをしています拒否があれば無理に誘っていません		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調への配慮と共に、好きな時間にお休みいただき、無理に起こすようなことはしていません		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人様服用の薬の説明書に職員全員が目を通し、確実に飲み込まれるまでを確認して支援に努めている	個人ごとの引出しで、それぞれの処方薬をセットし、管理している。処方薬の変更時は、薬局で注意事項についての指導を受け、職員に伝達している。内服時は、薬の確認から確実に飲み込んだことを見届けることで、服薬事故を防いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的には居室で過ごされる方が多いものの ホールで過ごされる方については、家事参加やぬり絵などの楽しみを提供しています	居室で過ごしたり、ホールで過ごしたり、思いの場所で過ごすことができる。ホールでは、利用者が肩たたきをしあったり、洗濯物を畳んだり、家庭で過ごすような日常の雰囲気がある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナも徐々に落ち着いてきており、大体は家族様の申し出が多いですがOKしています。今は、ご利用者様からの申し出はほとんどありません	受診時や、家族との外出の機会に外で過ごす時間を持つことができる。コロナ禍以降は外出を控えていたため、近所への散歩も状況を見ながらとなっている。今後、さらに屋外で過ごす時間を持てるよう検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の観点から、お金は契約時に所持をお断りしています		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは少ないものの自由にしてもらっています。 電話についても申し出があれば自由に掛けてもらっています		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室については表示しておいても理解が難しいので、出来るだけ職員が声掛け対応に努めている	昔ながらの和風建築の一軒家を改装し、従来の間取りを活かした居室作りで、自宅で過ごすような馴染みのある居住空間となっている。ホールは天井が高く温かみのある木の空間で、大きな窓は風と陽をよく取り込み心地よい。2階の階段には柵を取付け安全確保をしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どうしても性格が合わない方同士は席を離し争いの無い空間づくり、見守りをしています		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間については、おまかせしており出ています		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今、ご利用者様が自身で出来る事はしてもらい、介助は必要最低限で支援しています		